



都路

小さな学校・大きな家族

未来を創る人間性豊かな都路っ子の育成

みずから進んで学ぶ子ども

やさしく思いやりのある子ども

こん気強くやりぬく子ども

じぶんのよさに自信を持ち、さらに伸びようとする心

令和5年6月30日(金) 発行責任者 校長 國分 洋

田村市都路地区少年の主張大会から

6月28日(水)本校体育館において「田村市少年の主張大会都路地区大会」が開催されました。小学校からは5年 さくらさん、6年 そうたさんの2名が代表で発表しました。今の自分の目標や課題と向き合い、高い志の実現のためにチャレンジしていこうとする思いが伝わってくるすばらしい発表でした。審査の結果、8月6日(日)市文化センターで開催される市少年の主張大会では、都路地区小学生代表として6年 そうたさんが出場します。本大会での応援もよろしくお願いいたします。

都路小HP (R5.6.30現在)
訪問者 603, 500人
アドレス 都路小 検索
都路っ子の活動をほぼ毎日更新中!



「こく服作戦」 5年 さくら さん

「どうしたら、人見知りを治せるのかな。」

私は小さい頃から人見知りで、自分から話しかけることが苦手です。他の学年の人と話すとき、

「何を話したらいいのかな。」

と、きん張して、こまってしまう。はずかしがりやで、みんなの前で発表することも苦手です。

私がなぜ人見知りで、はずかしがりやなのかというと、自分に自信がもてないからです。

「相手にどう思われるのかな。」

と、いつも気にしてしまいます。みんなと気楽に話せるようになり、もっとなかよくなりたいので、こく服したいと思うようになりました。

考えが変わったきっかけは、去年の主張大会です。私と同じで人見知りではずかしがりやの姉が、大会に参加しました。人前でどうしようと発表している姿を見て、私も姉のようにになりたいと思いました。だから、今回の主張大会にりっこうほしました。人前でもどうしようと、はきはき話せるようになるために、二つのこく服作戦を考えました。

一つ目の作戦は、あいさつ作戦です。相手の目を見て、自分からあいさつすることをがんばります。自分からあいさつする習かんがつけば、自分に自信がつくと思います。自信がもてるようになったら、自分から話しかけたり、みんなの前で発表したりすることができるようになります。

今までは、相手の目も見ないであいさつしていたけれど、あいさつ作戦を始めたから、先生や友達に自然に目を合わせてあいさつできるようになりました。目を見てあいさつできるようになって、うれしかったです。目を合わせて話を聞いたりしていると、

「相手も自分もうれしくなるんだな。」

と思いました。これからもあいさつや返事をがんばりたいと思います。

こく服作戦の二つ目は、ハキハキ作戦です。わたしは自信がないので、ハキハキ話せないことが多いです。ハキハキ話すことを心がけた結果、今までとはちがうように話せるようになりました。説明している時は、先生たちや、他のみんなも聞きやすそうでした。ハキハキ作戦をしてよかったです。たまにできないときもあったけれど、授業の時にハキハキ話せるようになったので、続けていきたいです。

あいさつ作戦とハキハキ作戦をがんばったことで、はずかしがらずに自分で思ったことが言えるようになりました。自分に自信がもてず、人見知りではずかしがりやだったけれど、目を見てどうしようと話せるようになりました。

これからは、あいさつ作戦やハキハキ作戦をいかして、自分から話しかけられるようになりたいです。そして、おおぜいの人の前でも自信をもってどうしようと話せる自分になりたいです。



「ソフトボールの目標」 6年 そうた さん

ぼくは、ソフトボールをやっています。ソフトボールは、一年生の時に始めました。ソフトボールには、全国大会につながる大会があり、その大会に向けて一年生の頃からがんばってきました。六年生になり、まずは県大会に行けるようにチームのみんなで気持ちを一つにして練習をしてきました。県大会に行くには、地区大会で勝たなければなりません。



しかし、ぼくは県中地区大会の前に左ひざをはくり骨折してしまいました。けがをしてしまって、運動や体育の授業、何よりソフトボールができなくなってしまいました。ぼくはとても落ち込んで、けがをしたことを後かいしました。大会出場も少し諦めかけました。その時、お母さんに、

「絶対あきらめちゃだめ。今自分にできることをやりなさい。」

と言われました。お母さんは、ぼくが一年生の頃から、ずっと応援してくれています。がんばってきたぼくを見て、この言葉をかけてくれたのだと思います。ぼくは、この言葉を聞いて、

「そうだ。絶対にあきらめずに、自分にできることをして、努力をすれば、大会に間に合うかもしれない。」

と思いました。落ち込んで大会をあきらめかけた気持ちは、「絶対に大会に間に合わせてやる。絶対に県大会に行ってやる。」と前向きになり、がんばる気持ちに変わりました。

そして、お父さんやおじいちゃんは、ぼくのソフトボールの練習を一緒にしてくれました。お父さんは、ソフトボールのコーチをしています。イスに座りながらボールを打つという、ひざに負担のかからない練習法を教えてください、ひざのけがが少し良くなって動けるようになった時には、ピッチングのキャッチャーをやってくれたりしました。おじいちゃんは、ぼくが学校から帰ってくると、バッティングのトスをしてくれたり、キャッチボールをしてくれたりしました。

地区大会の日になりました。ひざのけがは良くなって、動けるようになりました。地区大会の一回戦目は勝利し、二回戦目はぼくがピッチャーでした。良いピッチングができて、二日目に残ることができました。二日目の三回戦目もピッチャーをして、ノーヒットで抑えることができました。そして決勝戦では、一対一となり決着がつかず、抽選で勝敗が決まることになりました。五対四で抽選に勝ち、県中一位で県大会へ出場することが決まりました。

県大会では二勝すれば全国大会に行けます。けれど、一試合目、チームのみんなが自分のやるべきプレーをあまりできませんでした。自分自身もピッチングで甘いコースに入って打たれてしまい、初戦で負けてしまいました。後かいが残る試合となってしまいました。試合後に、監督、コーチから話があって、「あの時のプレーを直したら勝っていたのかな」と思いました。県大会では負けてしまったけど、次の目標である白獅子杯に気持ちを切り替え「県大会の失敗を生かしてチームのみんなと練習に励んで強くなろう。」と思いました。

県大会では、全体的にバッティングで力を発揮することができませんでした。チャンスを作ってもその後につなげることができず、残塁に留まることがありました。白獅子杯では、メンバー一人ひとりが自分の役割を果たし、一点一点しっかりとることを練習から心がけて頑張っていきたいです。

今回、ぼくがけがをしても、こうやって大会に出場できたのは、家族や監督、コーチの助けやアドバイスがあったからでした。様々な人たちに支えられて自分ががんばることができていること、その人たちの支えがあることで今の自分があることに改めて気づきました。これからもその思いに応えるためにも精一杯がんばっていきます。



2日(日) 全国小学生陸上競技交流大会県大会

3日(月) 児童教育相談② 算数授業研究会

4日(火) 児童教育相談③

5日(水) フッ化物洗口 都路太鼓練習

6日(木) 交通安全教室②

7日(金) すずらん集会(七夕集会)

11日(火) 児童会④ 情報委員会選書ツアー

12日(水) 読み聞かせ(地域) フッ化物洗口 都路太鼓練習

13日(木) 幼小交流会 すずらん集会 地域学校保健委員会

14日(金) 給食試食会 授業参観② 思春期保健教室3年

親子レク 学年懇談会 PTA本部役員会 生活環境委員会

17日(月) 海の日

19日(水) 宿泊学習(4・5年)1日目 いわき海浜自然の家

20日(木) 宿泊学習(4・5年)2日目

21日(金) 個別懇談① 特別時程 下校バス14:45

24日(月) 個別懇談② 特別時程 下校バス14:45

25日(火) 個別懇談③ 特別時程 下校バス14:45

26日(水) フッ化物洗口 都路太鼓練習 夏季休業前全校集会

27日(木) 夏季休業～8月24日(木)まで

